

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191700014		
法人名	有限会社ライフケア		
事業所名	グループホームさんほうす		
所在地	藤津郡太良町大字糸岐字川北786-1		
自己評価作成日	平成30年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年6月27日	外部評価確定日	平成30年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様が家庭的で自宅に近い環境、安心して日常を送って頂けるように心掛けています。一人ひとりの要望を受け入れ、希望に添えるよう努めております。コミュニケーションを大切にし、家事活動など職員と一緒にいき、生活自立支援を行ってます。又、協力医療機関と連携を図り健康管理を行い、安心して生活を送って頂けるよう支援いたします。地域のボランティアや高校体験学習などを受け入れ、外食レクや外出レクなどで地域との交流を図り、利用者様も自主的に取り組んでもらえるような関わりを大切にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>地域社会の中で信頼される事業所を目指し、地域との結び付きも年々深まっている。消防団の避難訓練参加や、地域住民からの野菜やくだものなど差し入れも多く、その食材を使っでの調理は利用者の楽しみとなっている。介護理念である「ハッピーすまいる」での日々の介護は、職員の笑顔のある温かい支援の中で、利用者は自分らしく穏やかな毎日を過ごしている。また、毎月の便りには、人としての尊厳を大切にしながら、一人ひとりの暮らしの様子を写真とともに具体的に伝えており、家族の安心にもつながっている。明るくて広い居間は、各居室への出入りも一目で見渡すことができ、利用者が見守りにもつながっている。職員のチームワークも良く、また外部での研修会や自主的な勉強会にも参加し、質の高い介護が行われている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念と運営方針を事務所内、ホールデスク上玄関の入り口付近に掲示し職員がいつでも目を向けられるようにしている。	開設時に全職員と管理者が検討し創り上げた理念は、運営理念とともに職員が目を向けるところに掲示されている。管理者は職員会議などで理念の確認を行い、全職員が共有し、日々の支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政や地元のボランティア、地域の方との交流を大事にし、高校生の体験学習、保育園児の催し物などを受け入れ、交流を行っている。	地域の自治会に加入し、回覧板も回ってきており、隣近所から野菜や果物などの差し入れも届けられている。地域の文化祭などの行事にも参加し、ボランティアも積極的に受け入れ、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に一度開催している運営推進委員会で、実践している認知症の方への支援の方法を伝え、地域包括ケア多職種ネットワーク会議にも出席し意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族代表、行政の職員、医療機関の参加で開催している。事業所での活動状態や、取り組みなどを報告し、委員の方からの意見を取り入れサービスの向上に繋げている。	運営推進会議は2ヶ月毎に確実に行われている。入居者の状況、事故及び「ヒヤリハット」についての情報提供も行われている。各委員からの質問や意見も多く運営に反映できるようにしている。「施設内での押しピンでの書類の掲示の危険」との意見はその一例である。会議終了後、検食を兼ねて食事会もおこなわれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括ケア多職種ネットワーク会議に出席し、地域包括支援センターや社会福祉協議会とサービスについての情報交換を行っている。	町の主催でおこなわれる地域ケア会議などに参加し、行政からの情報をもらったり、事業所の実情や課題を伝え、担当者との連携を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての指針を、玄関ロビーに掲示している。毎月の職員会議の際に、身体拘束廃止委員会を開催し、職員みんなで話合っている。	身体拘束のない支援の方針を入居時に本人、家族に説明している。これまで身体拘束の事例はない。玄関は日中は出入り自由で、夜間のみ施錠し、外出傾向がある利用者には職員が寄り添い支援している。職員は研修会や施設内の勉強会などに積極的に参加し、身体拘束だけでなく言葉による抑制などについて正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学び、声かけや関わる時の姿勢など、自尊心を傷つけられると言う事を認識し入居者が安心して暮らしていけるよう、心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名、日常生活自立支援事業を利用している、地域の社会福祉協議会との連携を図り、入所者のニーズに対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に、重要事項説明書にて、十分な説明を行い、理解・納得の上で署名、捺印を頂いている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様と家族様がいつでも自由に面会できるようホール、または居室での会話の場を設けている。 職員への意見箱の設置もしているが、何でも話せる雰囲気づくりを心掛けている。	家族の面会時には入居者の状況を伝え、意向や希望など何でも話せる雰囲気づくりを心がけている。毎月のお便りで一人ひとりの日常の様子を担当職員が知らせたり、遠くにおいて面会に訪れにくい家族には、電話等で連絡を密に取り、意見や要望を出してもらえよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回職員会議を開催して、社長、事務長、管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も日頃からケア職員として兼務しており、職員と連携し、意見や提案を互いに言える関係である。月1回の職員会議では日頃のケアを通して職員一人ひとりの意見や提案をサービスの向上に結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の向上心、実績、勤務状況を把握し、有休休暇の取得に応じ、各自がやりがいのある、働きやすい職場の環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの経験力量を把握し、年間の研修計画を立て、法人内の研修や外部研修を受ける機会をつくり、研修参加諸経費の負担をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会に毎月参加し、ネットワーク作りや勉強会、活動を通じてサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。昨年から、地域包括ケア多職種ネットワークの勉強会にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当が入居前面談にて、本人様、家族様に要望など尋ね、新しい環境に早く慣れるよう配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月「お便り」と言う形で日々の生活をお知らせしている。また、面会時に様子などお伝えし、要望などがあれば、気軽に職員に言ってくださるよう伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、管理者、計画作成担当が中心となり、本人、家族と相談、外部の協力も得ながらサービス対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができる事、したい事を見極め、一緒に活動を行い、個人の自信へ繋がる支援を行っており共に生活を送る気持ちを心掛けている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一回のお便りで入居者様の様子を伝え、電話連絡や、面会時に家族様との会話を楽しくて頂くよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご自宅近隣の方の面会は積極的に受け入れており、家族様も時々面会に来て頂いている外出や外泊等は家族様の協力を得て支援している	家族の協力を得ながら、お寺参りや馴染みの理容室に出かけている。また、自宅が気になる利用者には自宅近くまで出かけ利用者の思いに応じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の朝の集いや室内レク活動、洗濯物たたみ等各個人のモチベーションにも配慮しながら、関わり合える機会を設け、充実した交流がもてるよう、支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	協力医や福祉事務所など必要に応じて電話での相談や連絡も行い、連携を図っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の情報を基本とし、普段の行動や表情の変化、繰り返される発言等を見逃さず、限られた暮らしの中で何を求められているのか、本人の気持ちに寄り添い、把握に努めている。また、担当制を用いる事で細部までサポートし、情報の共有がしやすいように支援している。	入居時の情報からだけでなく、日々の関りの中で声をかけ、思いや意向の把握に努めている。担当制を取ることで、生活の中でもちょっとした表情の変化や、行動、つぶやき等から思いの把握ができ、また、職員間で話し合いをし、情報を共有することができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族様から頂いた基本情報やアセスメントをまとめ、スタッフで共有している。また他の事業所や知人等、面会時に必要に応じ、協力情報を頂いている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	課題分析をまとめ、現状の把握を行っている。また日常の様子や変化を詳しく記録し、毎日の申し送りや職員会議で情報を共有し、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度全職員と計画作成担当でカンファレンスを行い、家族、本人にも意向を聞き介護計画を作成している。主治医、訪問看護師から助言も取り入れている	全職員で検討し、利用者本位の実行可能な介護計画が作成されている。担当者会議には家族の参加は少ないが、事前に要望や意見の把握に努めている。定期的にモニタリングを行い、評価と見直しを行っている。状態に変化が生じたときには、速やかに見直し現状に応じた介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書の内容に沿って、支援を実施し、日常の言葉や表情、態度を記録し職員の共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の同行や外出、買い物の援助、美容室への送迎など、入居者様、家族様の希望に添った対応を心掛け取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域資源の情報、把握を行っている。閉鎖的な暮らしにならないよう、高校生の体験学習や保育園との交流など社会との接点を積極的に図り、豊かな生活になられるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の希望に添い承諾を得てかかりつけ医を決めているが、地域的な面から協力医療機関での受診が主である。定期受診や、週一回の訪問看護等、各入居者様の情報を報告し、適切な医療を受けられるよう円滑な連携に努めている	入居時にこれまでの医療機関を受診できることを説明しているが、ホームの協力医療機関での受診希望がほとんどで、緊急時を含め、定期受診も職員が付き添い、支援を行っている。また歯科や眼科などは、訪問診察で対応し、家族にはその都度状況報告を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を図っている病院による週一回の訪問看護日に、各入居者様の日常の変化を伝え、当日の記の写しも提供して頂いている、急変時は連絡し指示を仰ぐこともあり、適切な判断を受けながら行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療ソーシャルワーカーや主治医、看護師と連携を図り、時には洗濯物を取りに行く際や他人居者の受診日に担当看護師との情報交換をするなど積極的な関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する方針」「重度化及び終末期のケア対応方針」を本人、家族様へ説明し、同意を得ている。指針に基づき、早い段階から本人、家族様等と話し合い、状況に応じ主治医を交えての情報提供を家族に行い、医療連携を図っている	入居時に、指針に基づき、利用者や家族に説明が行われて同意を得ている。これまでも看取りの事例はある。利用者の体調の変化に合わせて、主治医を交えて密に話し合いを行い、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応の訪問看護での医療連携により、適切な対処法や指導を受けている。救急対応関連の研修を受け全職員への報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や防災具店様の協力や指導のもと、定期的な防災及び、避難訓練を行っている。その際、体調の悪い方を除き、入居者様にも参加をして頂き、事後も反省会を行ない、災害対策に備えている	消防署の指導や消防団の協力を得ながら年2回の避難訓練が行われている。その際地域の住民の参加も得られている。職員は火災報知器、自動通報装置、消火器など緊急時の手順も熟知している。非常食の備蓄も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや、目線の高さを同じにするなど、対応する際は個人の尊厳を大切に行っている	職員は利用者の一人ひとりに、人格や誇りを損ねることがないように言葉かけやケアに努めている。管理者もケア職員として働いており、気になれば指導、助言することもある。個人情報の管理は運営規定に記載され、きちんと保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が希望や思いを伝えやすいよう、柔軟く受容し、プレッシャーを与えない言葉かけを行っている。表出の困難な方は選択肢を設け自己決定を導くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の集い等軽い日課はあるもの基本的には個人の意向を尊重している。その時の気分や体調、有する力に配慮しながらも、生活の活気に繋がる家事手伝いや外出レクには、なるべく参加して頂けるよう声かけし個人の意向に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容により、生活意欲の向上に繋がるよう働きかけている。着衣時は選択して頂き、美容室においても訪問でカットに来て頂き、身だしなみを心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物のアンケートを取り、メニューに取り入れている。季節の食材を使用し、季節感を味わって頂いている。収穫したばかりの食材をそのまま見て、触れて、下ごしらえをして頂き、関心を持って頂く。食卓を職員も一緒に囲み、見守りながら、同じ食事を頂いています。簡単な後片付けを、職員と一緒にやっている。	献立は利用者の意見や要望を聞きながら職員が作成し、近所の人からいただいた野菜や事業所の畑で利用者とともに収穫した野菜を使い調理されている。職員も一緒に食卓を囲み、見守りながら同じ食事をいただいている。テーブル拭きなど利用者ができる範囲で職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量、水分摂取量を記録に残し、栄養バランスも確保できるよう形態を変えたり、言葉がけのタイミングも考慮して支援している。水分量が少ない場合、飲み物の内容を変える等して対応して、水分摂取量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの介助。個々の状態により仕上げ磨きを行っている。希望者、必要な入居者様は、歯科往診もやっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄チェック表で排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を、心がけている汚染時にも自尊心を傷つけないよう、配慮している	必要な人には排泄チェック表を活用し、それぞれの利用者に合わせた排泄支援が行われている。昼夜ともに声掛けや誘導で自室のトイレでの排泄支援を行い、オムツを使用していた利用者が布パンツを使用することができるようになった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食事に牛乳を提供している。副食に食物繊維を多く含んだ食べ物を、取り入れている。便秘がちな人には、腹部マッサージをする、訪問看護師に相談指示を頂く等の対応。主治医に相談し、緩下剤処方検討している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、少なくとも週2回の割合で実施している。いつでも変更可能な状態に対応している。	基本的に週2回の入浴としているが、入居者の希望や汚染時はその時に応じて対応している。体調や入浴を嫌がる利用者は無理強いせず、日にちを変えたり、清拭などで対応している。脱衣場の室温環境も整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に昼寝を希望される方は、その時の状況に合わせて、いつでも休憩が取れるようにしている。夜眠れない時等は、話し相手になる等して、見守り、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬の説明書により、用法、用量、副作用等は理解、確認出来るようにしている。薬のセット、用意の際も職員2名で確認し、与薬の際も職員2名で、薬袋の氏名、日付、朝昼夕の復唱確認を行い、誤薬が無いように努め、飲み終わられるまでの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器すすぎ、ごぼう削ぎ等、調理が得意、掃除片づけが好き等、好きな事で手伝って頂いている。レクレーションも各個人で、塗り絵、貼り絵、歌レク等、色々な物を提案し、提供していきながら、選択して頂き、行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花や紅葉見物をおこなったり、外出に出かけたり、天気が良い日は外気浴をしながらお茶会をしている、希望に応じ、家族様と外出されている	天気がいい日は近所に散歩に出かけ、外気浴を楽しんでいる。四季の変化に合わせて、事業所で計画して花見や外食などの外出支援を行っている。車いすの利用者も一緒に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の現金出納帳と領収書綴りを作成し、本人様のお小遣いとして管理している。希望の品物の購入受診時の支払いなど行っている。毎月家族の方に開示し確認、捺印して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話はいつでも可能で、携帯所持も本人様が維持できれば可能		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同のスペースは広く、段差もなく歩行も安全に行える。各居室にトイレもあり、テレビはホールにあり夜間、時間制限もなく楽しまれている。時間に応じテレビのボリュームの調節はしている。	共用空間は一続きで広くて明るく、全体を見渡すことができる。ソファやテーブルが置かれ、利用者は思い思いに過ごすことができる。壁には七夕飾りで利用者の思いが書かれた短冊が色鮮やかに飾られている。快適に過ごせるよう空調管理もできている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを3つ設置し入居者様が自ら座りに行かれ、テレビを見たり、会話などされて過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、馴染みの品物など持参して頂き自宅に近い環境で生活出来るよう配慮している。家族様とも相談しながら整理整頓など行っている。	各居室にトイレが設置され、昼夜ともに排泄支援につながっている。利用者が落ち着いて過ごせるように、夜具や使い慣れたタンスが置かれ、その上には馴染みのものが見受けられる。室内は職員の掃除で清潔な室内環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況など把握し、ベッドの位置を変えたり、手すり設置など状態に応じ安全と自立した生活を送れるように工夫している		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない